

## 園だより 3月

わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。  
コリントの信徒への手紙Ⅲ 3章6節

まだ気温の変動はありますが、日中は暖かい日が続いています。残すところ2週間の3月を迎えました。年度末の子どもたちの心持ちは？と問いを巡らしながら2月も園庭で朝子どもたちを迎え、子どもたちとの一日を大切に過ごして来ることが出来ましたこと、感謝でした。「大きくなったね」と成長を感じる中、そのことを喜び合うことで、自分が大きくなったことに確信を持ち、友達関係や遊びに変化や広がりが見られ、逞しさも感じられる子どもたち、もうすぐ新しい学年に進んでいくことになんとかドキドキな気持ちを感じている子どもたち、穏やかに繰り広げられる園生活の中で、様々な気持ちが行き交っていたひと月でした。けれども、どの様な心持ちにも、また子どもたちが表現する姿にも新学期の様な不安な様子は無く、次への備えに対する糧になっていることが確信できました。各々の思いを受け止めつつ、期待を持って一緒に過ごすことが出来ました。3月の日々もゆっくりと、糧としてのときを大切に過ごして参りたいと思います。

園庭に大きなみかんの実がなっている木が有ります。数年ぶりにたくさんの実をつけました。以前の実がなったときには、園庭で一口大に小さく切り分けながら食べたい子どもたちが楽しんでいました。けれども、コロナ禍を考えると今年は同じように楽しむことには安易に踏み切れず、収穫を延ばし延ばしにしていました。せめてと、皮でマーマレードを作りそれを2月のお誕生日会クッキーの中身にしました。みかんの香りがする素朴で美味しいクッキーでお祝いことができましたことは嬉しいことでした。それでも木にはまだ実がいっぱいなっていました。気になってボールをあてて実を落とそうとしている子どもたちもいました。今年は園庭では食べられないことを子どもたちに伝えますと、「お弁当のときに食べたら？」と。それは良いアイデア！飛沫を心配することもあります。先日、子どもたちと楽しく工夫しながら収穫をしました。近々お弁当のフルーツで楽しめたらと思っています。

コロナ禍で心落ち着かない状況は変わりませんが、その様なときでも神様は私たちの心が休まる恵みを自然の中に備えてくださっています。その豊かな恵みを子どもたちと感じ取り、喜び合える穏やかなときに感謝しながら、3月の日々も過ごして参りたいと思います。変わらない、ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

園長 駿河 幸子